

日時:平成28年11月1日(火曜日)19:00~21:00

場所:宮崎市佐土原総合支所2階研修室

第33回宮崎海岸市民談義所



国土交通省 宮崎河川国道事務所

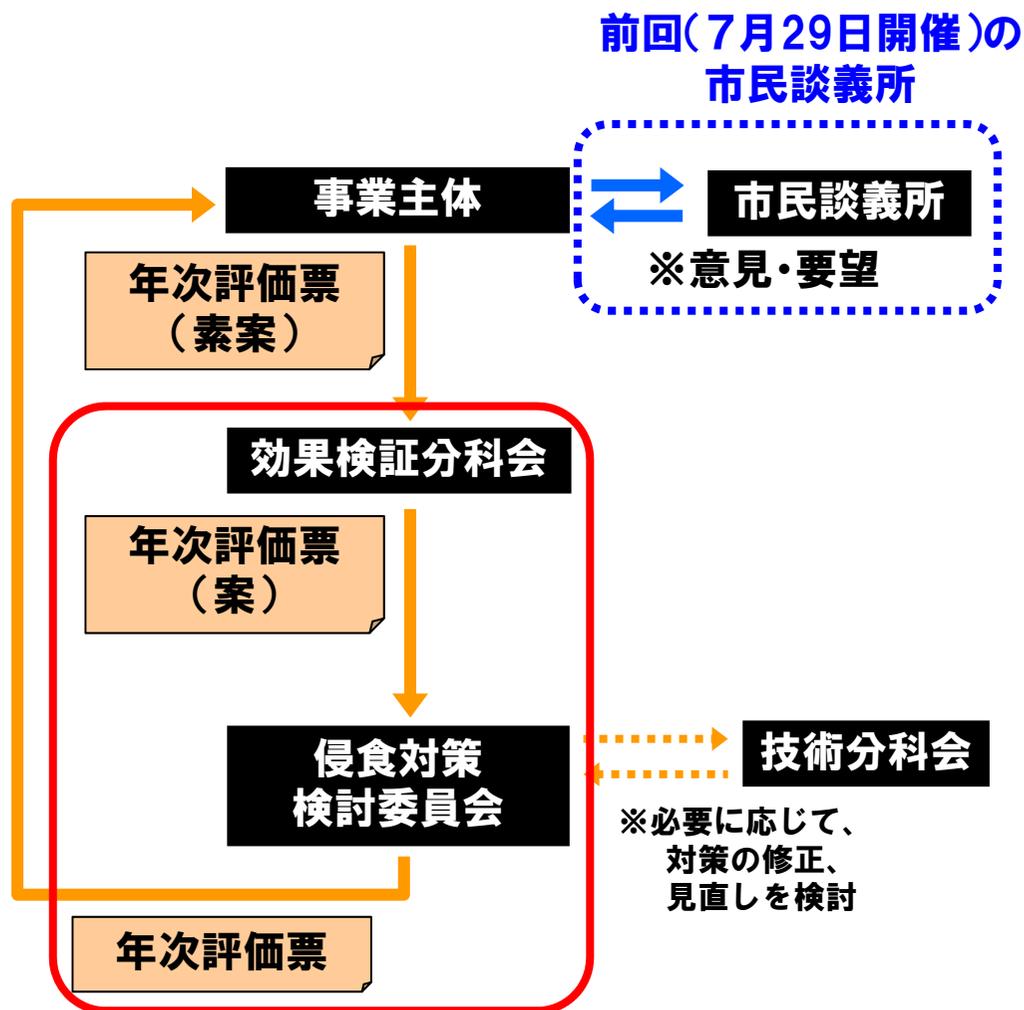
宮崎県

本日の流れ

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
2. 第32回宮崎海岸市民談義所の振り返り
3. 宮崎海岸の現状
4. 報告(工事の実施状況、予定他)
5. 報告(第15回委員会等の結果)
6. 談義(第15回委員会の結果について、その他)
7. 今後の予定
8. その他

本日の流れ

②年次評価を検討する手順と市民談義所の役割



- 市民談義所は、主な調査及び工事に関する談義を行い、事業主体に意見・要望を伝える。
- 事業主体は、調査結果及び談義を踏まえ、年次評価(素案)を作成する。
- 効果検証分科会は、事業主体が作成した年次評価(素案)を検討し、年次評価(案)を作成し、委員会に報告する。
- 委員会は、効果検証分科会が作成した年次評価(案)を検討し、最終的な年次評価を行う。
- 技術分科会は、必要に応じて、対策の修正、見直しを検討する。

本日の市民談義所

・効果検証分科会・委員会の結果を報告

1. 宮崎海岸の侵食対策の概要

◆目的

- ・海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の人々の安全・安心を確保するとともに、国土を保全する。

◆目標

- ・「背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止すること」を防護目標とし、そのために必要な「浜幅 50m の確保」を達成することを目指す。
- ・現況汀線位置が浜幅 50m 以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指す。

◆考え方

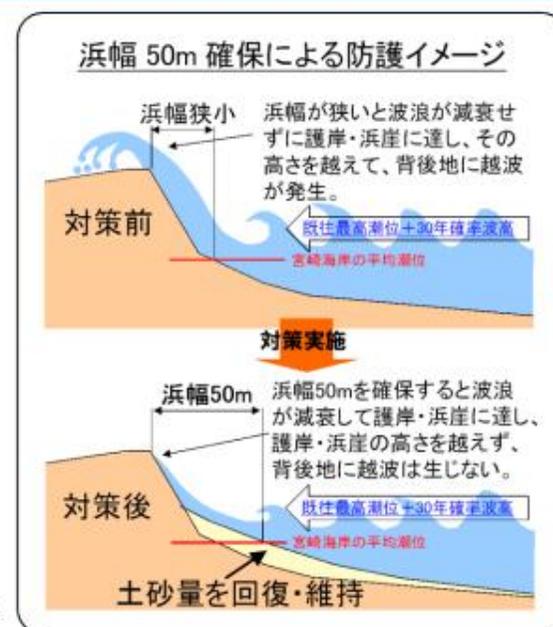
- ・北からの流入土砂を増やすこと(機能①)、南への流出土砂を減らすこと(機能②)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復・維持する。
- ・急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖頂部高の低下を防ぐ(機能③)。

◆配慮事項

- ・新たに設置するコンクリート構造物は出来るだけ減らす。
 - ・それぞれの区域の特徴に応じたものとする。
 - ・豊かな自然環境を最大限残す。
 - ・美しい景観、漁業・サーフィン・散歩等の利用に配慮する。
 - ・(直轄)工事完了後も維持管理に過剰な負担がかからないようにする。
 - ・山、川、海における土砂の流れに出来るだけ連続性をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていく。
- ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業とも連携した養浜を積極的に実施していく。

◆事業の進め方

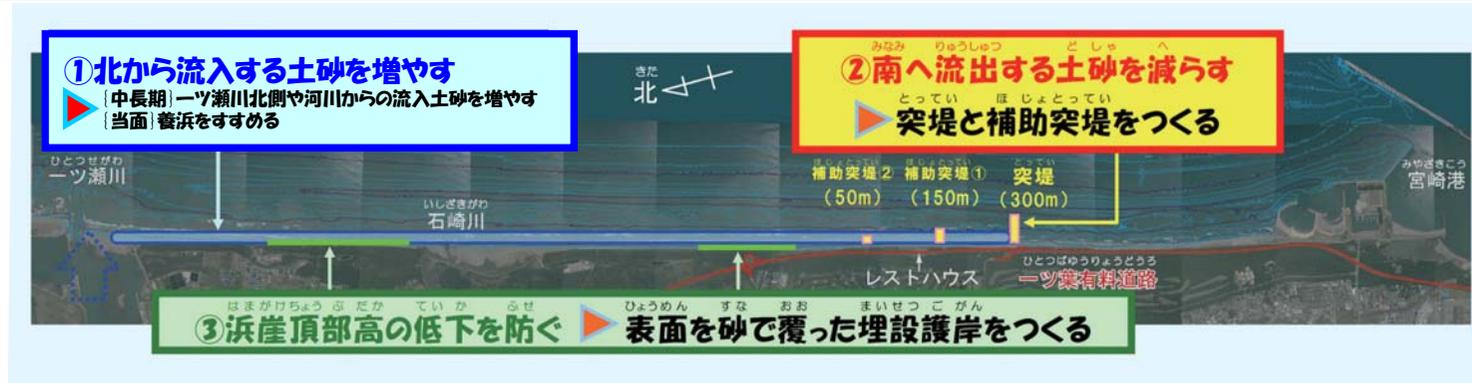
- ・今後もこれまでと同様、「宮崎海岸トライアングル」および「宮崎海岸ステップアップサイクル」の考え方に基づいて進めていく。



宮崎海岸の侵食対策

たいさく もくひょう
対策の目標

すなはま かいふく はまはば かくほ
砂浜を回復し浜幅50mを確保する。



ようひん 養浜

すなはま やしな りくじょう かいちゅう じんこうてき
“砂浜を養う”ために陸上または海中へ人工的に砂を入れることです



とつてい 突堤

りく うみ む ほそなが の ていぼう
陸から海に向けて細長く伸びる堤防のこと
かいがんせん そ うご すな と
海岸線に沿って動く砂を止めることができます



まいせつごがん 埋設護岸

しぜん ていぼう さきゅう はまげ
自然の堤防である砂丘がくずれないように、浜崖の根元を波から守る「砂の中に埋まった護岸」です

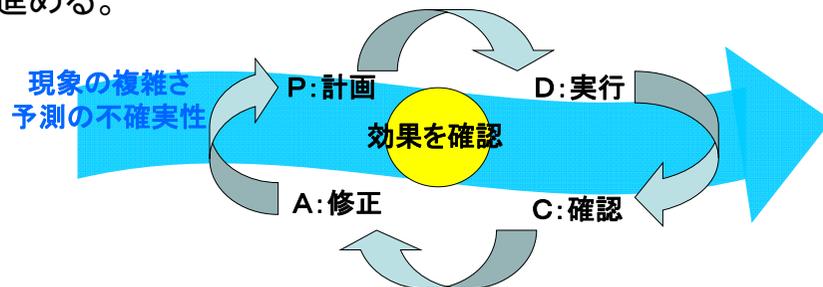


宮崎海岸侵食対策の技術検討の流れ

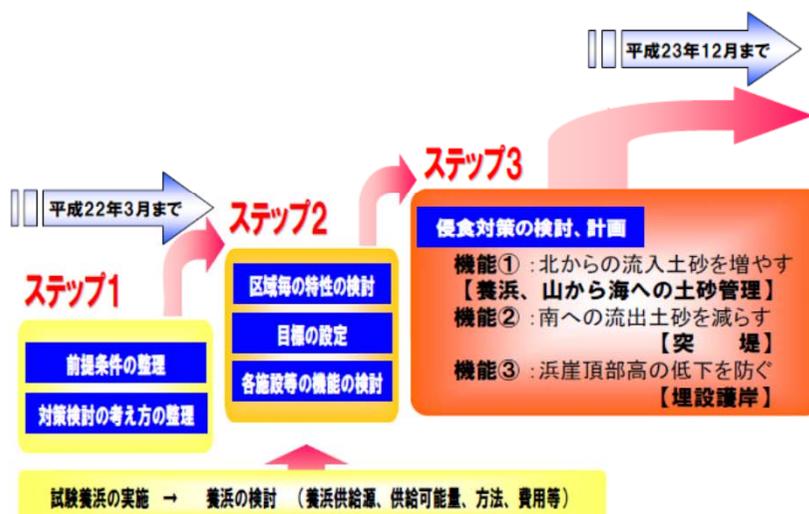
～技術検討から対策の実施と効果検証～

宮崎海岸ステップアップサイクル

どのような方法をとればよいかを検討・実施し、効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進める。



宮崎海岸侵食対策は、
「侵食対策の検討、計画」から、
「侵食対策の実施、効果・影響の確認」の段階に。



ステップ4 (対策の実施と効果検証)

修正・改善、工夫

対策の修正・改善、工夫の内容や計画の変更について検討する。

効果影響の確認

各種調査を実施するとともに、併せて環境・景観・利用の関係者からの声を聴くことにより対策の効果・影響を確認する。

侵食対策の実施

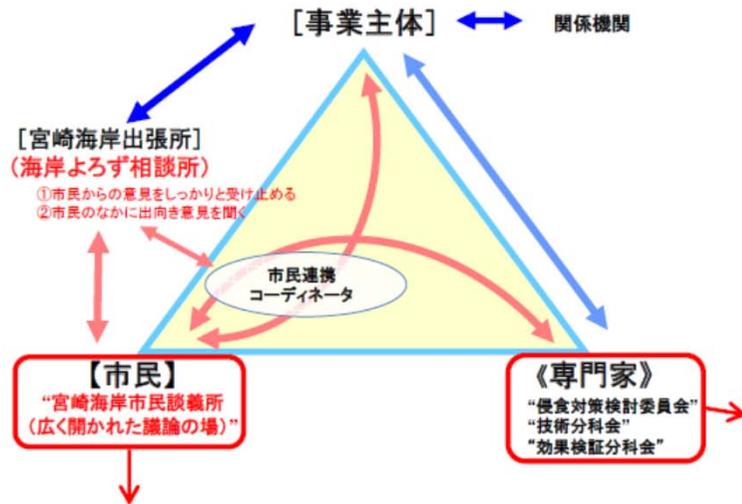
機能①: 養浜、山から海への土砂管理
機能②: 突堤
機能③: 埋設護岸

体制と運営方針

～委員会、技術分科会、効果検証分科会、市民談義所～

宮崎海岸トライアングル

宮崎海岸の砂浜の保全を目的として、行政・市民・専門家が三者一体となって進める。



侵食対策検討委員会

- ・今後は、侵食対策の計画段階から、侵食対策の実行・確認(必要に応じて修正)段階へと移行するため、委員会の設置目的を追加・変更して、現委員会を基本としつつ発展させた委員会を継続する。
- ・毎年1回以上開催し、調査結果等から、侵食対策の効果・影響を確認し、侵食対策の継続または修正の必要性等について協議する。

宮崎海岸市民談義所

- ・今後も「広く開かれた議論の場」として継続する。
- ・さらに、興味・関心のある多くの市民が参加できる機会を作っていく。
- ・市民と連携した調査も模索していく。
- ・調査結果の報告、侵食対策実施状況、それらの修正・改善等について談義していく。

技術分科会

- ・委員会の付託により、技術的な検討が必要になった場合に適宜開催し、検討する。

効果検証分科会

- ・委員会の付託により、毎年1回以上開催し、検討する。

これまでの談義所、分科会、委員会等の開催状況

- 10 -

- 宮崎海岸 侵食対策検討委員会 平成19年9月7日～現在まで15回開催
- 宮崎海岸 侵食対策検討委員会 技術分科会 平成21年1月29日～現在まで13回開催
- 宮崎海岸 侵食対策検討委員会 効果検証分科会 平成24年7月22日～現在まで5回開催
- 宮崎海岸 市民談義所 平成21年4月25日～現在まで32回開催
(※談義所開催以前に、懇談会5回、勉強会15回を開催)

※ 宮崎海岸では、これまで侵食対策検討の場として3つの会議、開かれた市民の参加の場として市民談義所等を開催し、談義を積み重ねてきました。
開催の履歴等については、展示している『宮崎海岸のこれまでの取り組み』(年表 市民とのあゆみ)、受付に置いている『宮崎海岸の侵食対策 ～成り立ちと経緯～』(パンフレット)でご覧いただけます。



第5回【平成28年8月30日開催】



第13回【平成27年10月2日開催】



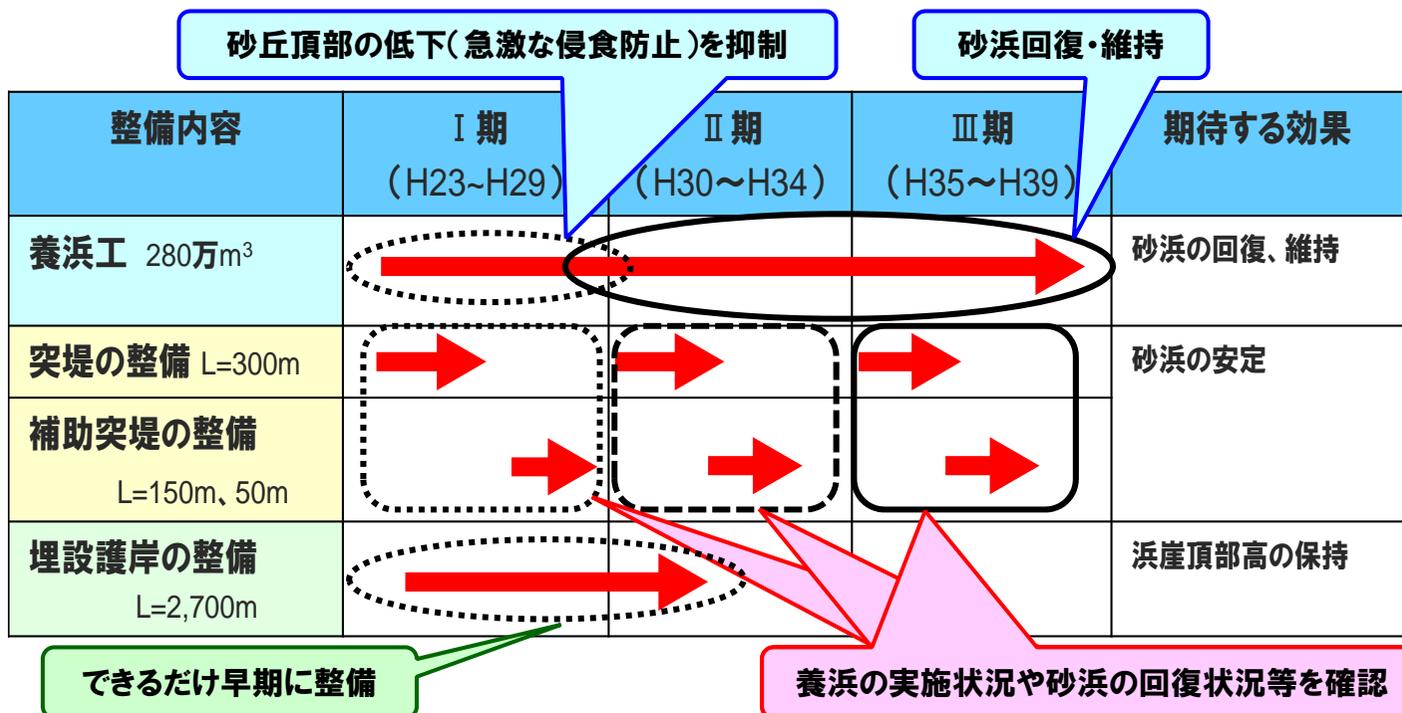
第15回【平成28年9月30日開催】



第32回【平成28年7月29日開催】

■事業全体スケジュール

- ・**養浜**はⅠ期では砂丘頂部の低下抑制(急激な侵食防止)を主目的として実施し、**突堤・補助突堤**による南への流出抑制が機能してくるⅡ期・Ⅲ期では、砂浜回復・維持を主目的とする。
- ・**突堤・補助突堤**は急激に設置すると影響が大きいことから、「宮崎海岸ステップアップサイクル」に従い、養浜の実施状況や砂浜の回復状況等を確認しながら着実に整備を進めていく。
- ・**埋設護岸**は高波浪時の砂丘頂部の低下(急激な侵食)を抑制することが目的であるため、できるだけ早期に整備を行う。



事業全体の長期的な見通し ～第Ⅰ期のスケジュールの概要～ - 12 -

| 対策工 | 計画量 ※1 | 第Ⅰ期(H23～H29年度) | | |
|---------------------------|-----------|-----------------------------|----------------------|---------------|
| | | H27年度まで 上段:施工量 下段:進捗率 | H28～29年度(見込み含む※2) | |
| | | | H28年度 | H29年度予定 |
| 養浜工 (万m ³) | 280 | 99.6 (36%) | 実施 | 実施予定 |
| 突堤 (m) | 300 | 75 (25%) | 実施しない | 状況によっては 実施 |
| 補助突堤① (m) | 150 | 0 (0%) | 実施※3 | 状況によっては 実施 |
| 補助突堤② (m) | 50 | 0 (0%) | 実施※3 (完成) | |
| 大炊田地区 埋設護岸(m) | 1600 | 1,580 (98%) | 実施しない | 実施しない予定 |
| 動物園東地区 埋設護岸(m) | 1100 | 280 (25%) | 実施 (開口部を含む100m程度) | 実施予定 |

※1：計画量は、第Ⅰ期～第Ⅲ期までの全体計画量であり、砂浜の回復状況等を踏まえて見直すことがある

※2：新設・延伸の予定であり、災害復旧、補修等は別途、適宜実施する場合がある

H28以降は現時点での見込み・想定であり、決定事項ではない

砂浜の回復具合、予算、土砂の調達状況、関係者との調整状況等を踏まえて決定していく

※3：H27年度予算工事をH28年度に実施

2. 第32回宮崎海岸市民談義所の振り返り

(1) 第32回宮崎海岸市民談義所の開催概要

(1) 第32回宮崎海岸市民談義所の開催概要

- 14 -

- 開催日：平成28年7月29日(金)
- 場所：現地、佐土原総合支所研修室
- 参加した市民：16名
- 議事概要：
 1. 宮崎海岸の侵食対策の概要
 2. 第31回宮崎海岸市民談義所の振り返り
 3. 宮崎海岸の現状
 4. 報告(工事の実施状況、予定他)
 5. 談義(対策の評価について)
 6. 今後の予定



【 談 義 の 概 要 】

- 平成26年度に実施した対策の効果検証について、波浪の来襲状況、地形変化、環境・利用面の効果・影響を説明するとともに、宮崎海岸の状況を空撮をみながら共有するとともに、現在、実施中の工事(養浜、突堤、埋設護岸)の状況、今年度実施予定の工事スケジュールについて説明した。
- 実施した対策の効果・影響については、事業主体の評価と市民の認識に大きなギャップがないことを共有した。
- 養浜事業の効果や今後の砂浜回復に関する事項や、海底地形の変化、台風が来襲した際の安全性等について談義した。

3. 宮崎海岸の現状

★スクリーンをご覧ください



4. 報告(工事の実施状況、予定他)

- (1) 養浜工 工事の実施状況と予定
- (2) 本突堤 既設部分の天端被覆 工事の実施状況と予定
- (3) 補助突堤① 工事の実施状況と予定
- (4) 補助突堤② 工事の実施状況と予定
- (5) 大炊田地区 埋設護岸補修 工事の実施状況と予定
- (6) 動物園東地区 埋設護岸復旧 工事の実施状況と予定
- (7) 動物園東地区 埋設護岸延伸 工事の予定
- (8) 浜山コンクリート護岸災害復旧 工事の実施状況と予定

(1) 養浜工 工事の実施状況と予定



動物園東地区の例：平成28年7月26日撮影

■工事スケジュール
通年：必要な箇所に適宜実施

(2) 本突堤 既設部分の天端被覆 工事の実施状況と予定

- 18 -



■工事スケジュール

平成28年5月：工事着手

平成28年9月：完成

平成28年9月29日撮影

(3) 補助突堤① 工事の実施状況と予定



■ 工事スケジュール

平成28年1月：工事着手

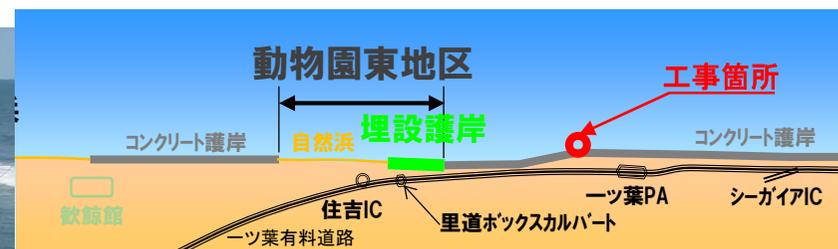
平成28年6月：42m完成

(計画延長150m)

平成28年9月29日撮影

(4) 補助突堤② 工事の実施状況と予定

- 20 -



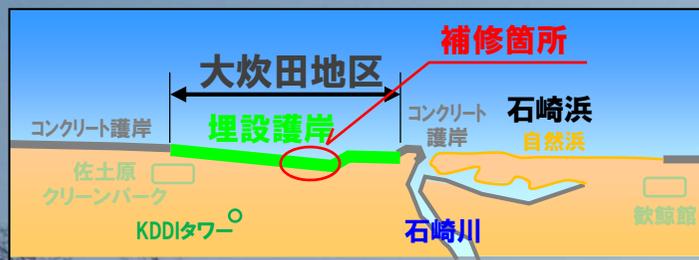
平成28年7月27日撮影

■工事スケジュール

平成28年5月：工事着手

平成29年3月：完成(予定)

(5) 大炊田地区 埋設護岸補修 工事の実施状況と予定

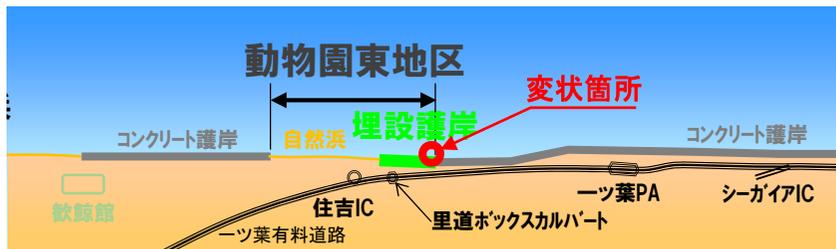


■ 工事スケジュール
平成28年4月：工事着手
平成28年7月：完成

平成28年7月27日撮影

(6) 動物園東地区 埋設護岸復旧 工事の実施状況と予定

- 22 -



平成28年9月29日撮影

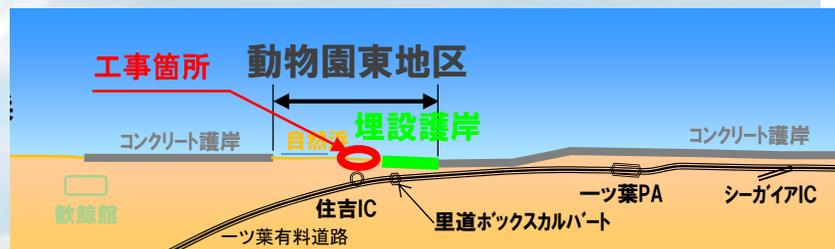
■工事スケジュール

平成28年3月：工事着手

平成29年1月：完成(予定)

※平成28年7月までに、既設コンクリート護岸に隣接する主な箇所は復旧済み

(7) 動物園東地区 埋設護岸延伸 工事の予定



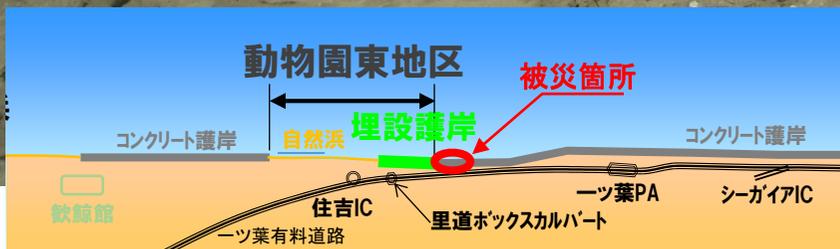
■工事スケジュール

平成28年12月以降:着手予定

平成29年6月:完成(予定)

平成28年9月29日撮影

(8) 浜山コンクリート護岸災害復旧 工事の実施状況と予定



平成28年7月26日撮影

■工事スケジュール
平成28年3月: 工事着手
平成29年3月: 完成(予定)

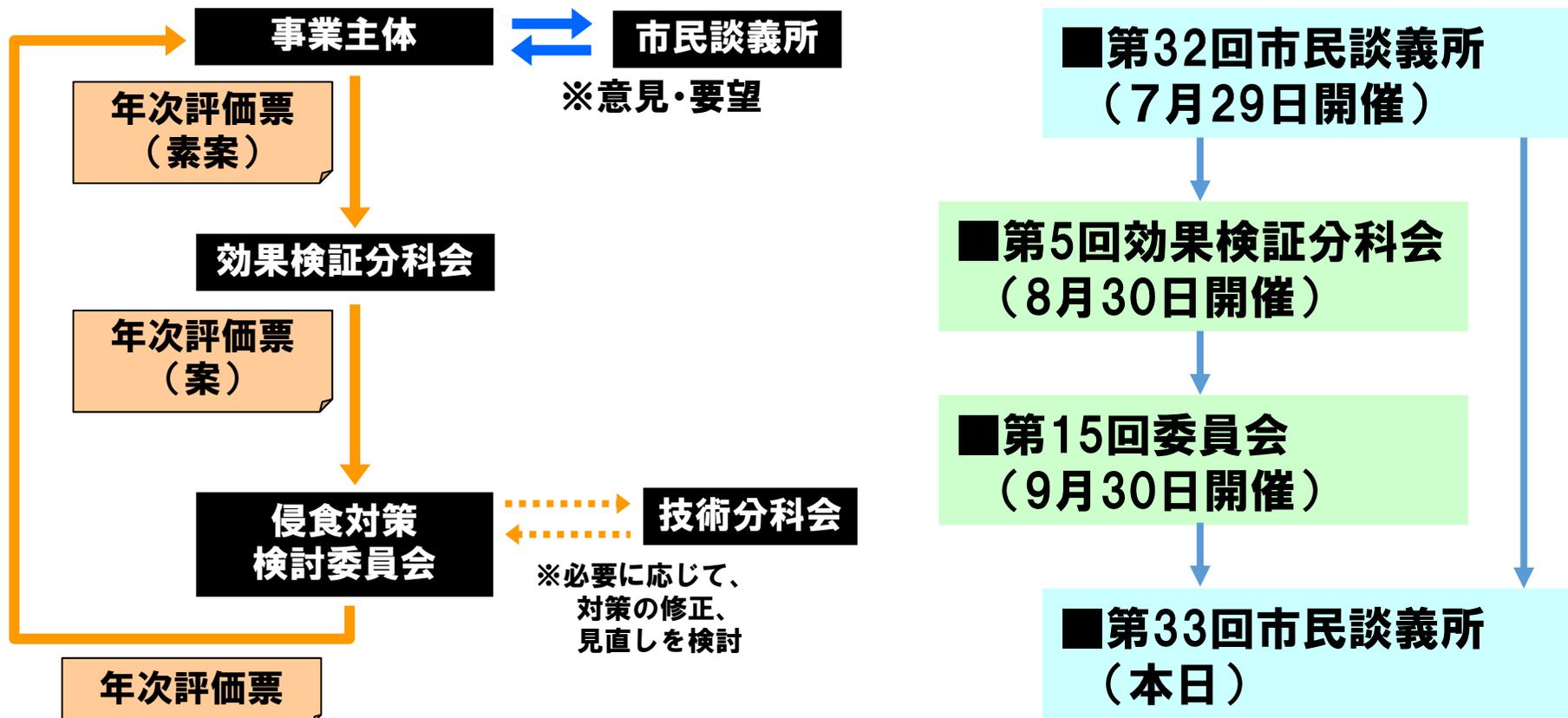
5. 報告(第15回委員会等の結果報告)



- (1) 第5回効果検証分科会、第15回委員会の開催概要
- (2) 対策の評価の概要
- (3) 今後の調査計画

(1) 第5回効果検証分科会、第15回委員会の開催概要 - 26 -

①全体フロー



(1) 第5回効果検証分科会、第15回委員会の開催概要⁻²⁷⁻

② 第5回効果検証分科会の開催概要

□開催日：平成28年8月30日（火）

□場所：ニューウェルシティ宮崎

□議事概要：

1. これまでの検討結果の振り返り
2. 報告事項
平成26、27年度の侵食対策実施状況
宮崎海岸市民談義所等の開催状況
3. 検討事項
(1)平成26年度に実施した対策の効果検証
(2)平成28年度後期以降の調査実施計画(案)

【会議の様子】



【現地視察の様子】



(1) 第5回効果検証分科会、第15回委員会の開催概要 - 28 -

③ 第15回委員会の開催概要

□開催日：平成28年9月30日（金）

□場所：宮崎市民プラザ

□議事概要：

I. 侵食対策による効果・影響の年次評価(案)と今後の調査計画

(1) 前回委員会までの振り返り

(2) 宮崎海岸市民談義所等の開催状況

(3) 平成26年度の侵食対策の実施状況

(4) 第5回効果検証分科会の検討結果

1) 平成26年度に実施した対策の効果検証

2) 平成28年度後期以降の調査実施計画(案)

II. 平成28年度実施工事と今後の予定

(1) 平成28年度実施工事

(2) 今後の予定



■ 計画検討の前提条件の課題

- ・エネルギー平均波の波向がやや計画値と異なる傾向が継続している (p33, 34)。

■ 今後の方向性

- ・2015(H27)年は、台風経路により南から入射した波浪が多かったため、エネルギー平均波の波向は長期的に変化したかどうかは現時点では判断できない。
- ・地球規模で予測されている海面上昇等の気候変動の影響については、当面はデータを蓄積し、今後新たな知見が得られたときに適宜モデルの見直しをする。
- ・その他の諸元については計画変更が必要となるような兆候は見られていないが、今後もデータを注視していく必要がある。

《主な市民意見》

- 昨今の自然現象の変化を受け、今後事業をどのように進めていくつもりか。
- 国から県に移管するまでの間に、海面上昇への対応のプランだけは立てておいてほしい。

| | |
|----|--|
| 評価 | 調査結果を注視し、前提条件の使用を継続 |
| | 調査結果を特に注視し、前提条件の使用を継続 主な理由: エネルギー平均波の波向が計画値とやや異なる傾向が継続して確認されている点を特に注視 |
| | 前提条件の継続使用を保留 |

(2) 対策の評価の概要 ② 養浜

■ 養浜の効果

- ・2015(H27)年は、広範囲に侵食した箇所もなく、大炊田地区等で堆積もみられることから(p37)、実施した養浜に一定の効果はあったと考える。

■ 養浜の課題

- ・長期的に見ると比較的広範囲で侵食が進行していることから、更なる養浜の推進が課題である(p37, 38)。
- ・2015(H27)年は波向がやや通常と異なり、砂の動き方も通常とは少し違っていた(p39)。このようなことが起こることも想定した養浜を実施していくことも課題である。
- ・アカウミガメの上陸・産卵の減少等を踏まえた適切な養浜の実施も課題である(p40)。

■ 今後の方向性

- ・養浜を円滑かつ効率的に進めるために、他事業との連携を更に進めて養浜砂を確保していく。
- ・土砂の移動が南から北へ急激に動くことなども見据えて、養浜を投入していく。
- ・サンドバック設置箇所については、その露出が環境・利用の妨げにならないように養浜を実施していく。

《 主な市民意見 》

- 養浜の年間8万m³というのは少ないと思う。年間20万m³ぐらい侵食されているので、それぐらい養浜しないと砂は付かないのではないのか。
- 宮崎港のマリーナに堆積した土砂を活用したサンドバイパスのようなことは考えていないのか。
- 海中養浜の投入位置をもっと北側にしてほしい。レストハウス前では効果がない。

| | |
|-----|--|
| 評 価 | 対策は順調に進んでおり工法を継続 |
| | 対策は概ね順調に進んでおり工法を継続 主な理由: 一部区間では堆積が見られるが、養浜の絶対量は不足している |
| | 対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留 |

(2) 対策の評価の概要 ③ 突堤

■突堤の効果

- ・2015(H27)年は、陸域の砂浜に着目すると、突堤建設までは砂浜が消失していたが、突堤建設以降、突堤北側近傍では、前進傾向が見られるため(p43)、一定の効果はあると考える。
- ・景観については、周囲に馴染んでいると考える(p44)。

■突堤の課題

- ・突堤周辺の土砂量が回復するには至っておらず、延伸等による漂砂捕捉効果の強化が課題である(p43)。
- ・2015(H27)年は波向がやや通常と異なり、砂の動き方も通常とは少し違っていた(p39)。このようなことが起こることも想定して適切に対策を行うことが課題である。

■今後の方向性

- ・引き続き、測量等による効果・影響の把握、堤体の機能維持に努める。
- ・長期的には、北から南への土砂移動が生じており、南への流出土砂を減らすため、突堤による漂砂制御を推進する。
- ・台風期には土砂の移動が南から北へ急激に動くことも見据えて、突堤に加えて補助突堤も整備し、海浜の安定化を図っていく。

《主な市民意見》

- 突堤ができて、一時的には効果を感じたが、結局は全くもとの状態に戻っている。
- 当初、突堤を300m伸ばすことによって沖合で流れる砂を止めないと効果がないという説明を受けていたが、今は効果の検証がされないままやみくもに突堤を追加して、景観を破壊しているように思う。
- 突堤が出来て魚介類が増えるということは収穫にとってプラスになるのではないか。

| | |
|-----|---|
| 評 価 | 対策は順調に進んでおり工法を継続 |
| | 対策は概ね順調に進んでおり工法を継続 主な理由: 突堤付近で砂浜は回復しつつあるが、海中を含めた土砂量は回復には至っていない |
| | 対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留 |

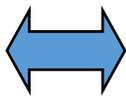
(2) 対策の評価の概要 ④埋設護岸

■埋設護岸の効果

- ・埋設護岸の端部から回りこんだ波により一部、浜崖が後退したが、それ以外の場所では浜崖の後退は生じておらず(p47)、一定の効果はあると考える。

■埋設護岸の課題

- ・端部においてはサンドパックの変状も生じており、端部の早期解消、サンドパック等の構造の強化、洗掘防止対策の改良等、高波浪時の緊急養浜等の対応が課題である(p48)。



■今後の方向性

- ・端部においては、ストック養浜等により対応していく(一部、対応中である)。
- ・サンドパックの変状防止についても、不陸の生じにくいグラベルマット導入等、実施中である。
- ・サンドパックが露出した場合においては、緊急養浜を行う等の対応を進めていく。

《主な市民意見》

- サンドパックはもっと丈夫なものにしてもらいたい。
- 動物園東のサンドパック開口部の袋詰玉石設置部分では、波の力が増幅されて南と北のサンドパックに影響が出ることが考えられる。この区間もサンドパックで対応してもらいたい。
- 動物園東は松林が崩れるような侵食が毎年発生している。突堤の工事を早く進めて砂浜を回復し、その工事の間に侵食が進まないようにサンドパックを施工してもらいたい。



| | |
|----|--|
| 評価 | 対策は順調に進んでおり工法を継続 |
| | 対策は概ね順調に進んでおり工法を継続 主な理由: 設置箇所の背後の浜崖は安定していることは確認されたが、埋設護岸の本体に一部変状が生じている |
| | 対策に解決すべき問題があり工法の継続を保留 |

(3) 今後の調査計画

| 調査項目 | | 調査手法(案) | | |
|-------|--------------------|--|--------------------------------|------------------|
| 海象・漂砂 | 潮位観測 | 水位計を定点に設置・観測 | | |
| | 波浪観測 | 波高・流速計を定点に設置・観測 | | |
| | 風向・風速観測 | 風向・風速計を定点に設置・観測 | | |
| | 流向・流速観測 | 流速計を定点に設置・観測 | | |
| 測量 | 地形測量 | 汀線横断測量、浜崖横断測量、マルチファンビーム等を用いた面的な測量 | | |
| | カメラ観測 | カメラ観測機材を定点に設置・観測 | | |
| | 突堤・離岸堤堤体の点検 | 直接水準測量もしくはレーザー測量、堤防点検等の手法を準用(潜水目視観察含む) | | |
| 環境・利用 | 底質 | 養浜材調査 | 養浜材の分析(水底土砂判定基準項目) | |
| | | 付着・幼稚仔 | 付着生物調査 | 潜水目視観察および枠内採取、分析 |
| | | 幼稚仔調査 | サーフネットを用いた採取、分析 | |
| | 底生生物 | 底質・底生生物調査 | 採泥器、ソリネットによる底質採取、分析(底生生物、底質環境) | |
| | | | ソリネットによる底質採取、分析(底生生物、底質環境) | |
| | 魚介類 | 魚介類調査 | 地元漁法(網漁法)による採取、分析 | |
| | | | 大型サーフネットによる採取、分析 | |
| | | | 潜水目視観察(付着は枠内採取) | |
| | 漁獲調査 | 統計データ調査 | | |
| | 植物 | 植生断面調査 | ライトランセクト法、横断測量 | |
| | 鳥類 | コアジサシ利用実態調査 | 定点観察法、任意踏査による観察 | |
| | アカウミガメ | アカウミガメ上陸実態調査 | 上陸・産卵痕跡の確認・記録、横断測量 | |
| | | 文献調査 | 宮崎野生研の調査データの収集 | |
| | | 固結調査 | 可搬型測定器を用いた貫入調査 | |
| 利用 | 海岸巡視 | 分布調査、聞き取り調査 | | |
| 景観 | 景観調査 | ヒアリング・アンケート等 | | |
| 市民意見 | 市民談義所・よろず相談所・ヒアリング | 聞き取り調査、書面等の確認の上要検討 | | |
| | | | | |
| 目視点検 | 巡視 | 関係者による目視、市民による目視・通報、ドローン撮影 | | |



地形測量の例



鳥類調査の例



魚介類調査の例



(4) 委員会の主な意見

✦ 委員意見の概要(第15回宮崎海岸侵食対策検討委員会, H28.9.30開催)

- 宮崎港から突堤の間の離岸堤の背後に砂が溜まっている。早く効果を出すのであれば工法は離岸堤が良い。突堤では砂浜は回復しないと思うし、漁業操業の邪魔になる。
- 過去の委員会で離岸堤案も含めて比較し、現在の養浜・突堤・埋設護岸の組合せで対策することを決定した。その議論の中で、離岸堤は全線に設置する必要があるため、現在自然浜の残る区間に離岸堤を設置することによりかなり反対があった。計画は一旦決定したら変更しないということではないため、委員会で効果を確認しながら進めていくが、現時点で工法の見直しは時期尚早と思う。
- 今、離岸堤が一番いいと思っても、何年たっても今と同じ状況かということも含めて検討していくことが妥当と思う。我々の生きている間、維持されれば良い、というものでもない。
- 離岸堤より突堤のほうが効果的であるということが納得できるようなデータを示すことが重要ではないか。
- 漁業者も談義所に参加し、市民の意見を聞き、漁業者としての意見を話してみてもどうか。
- 突堤75mとしたときのシミュレーションによる予測結果や、実際の波を考慮し、現地の地形変化を解析・比較することにより、シミュレーションの精度向上を検討していくことが望まれる。
- 3つの目標(北から流入する土砂を増やす、南へ流出する土砂を減らす、浜崖頂部高の低下を防ぐ)について、どれくらい達成されたのか分かるようにしてほしい。
- 北からの土砂量を増やす、中長期的な計画の進捗状況や、宮崎県と連携して、今後どうやって土砂を融通していくかということが重要であると思う。
- 海岸に立入れない状態が長く続くと、せっかくの効果も効果として実感できない。海岸が良い状態になればすぐにいつでも行けるような措置をとることが重要と思う。

⇒年次評価及び今年度の工事・調査計画は了承され、計画に従って実施することとなった。

6. 談 義

○第15回委員会の結果について

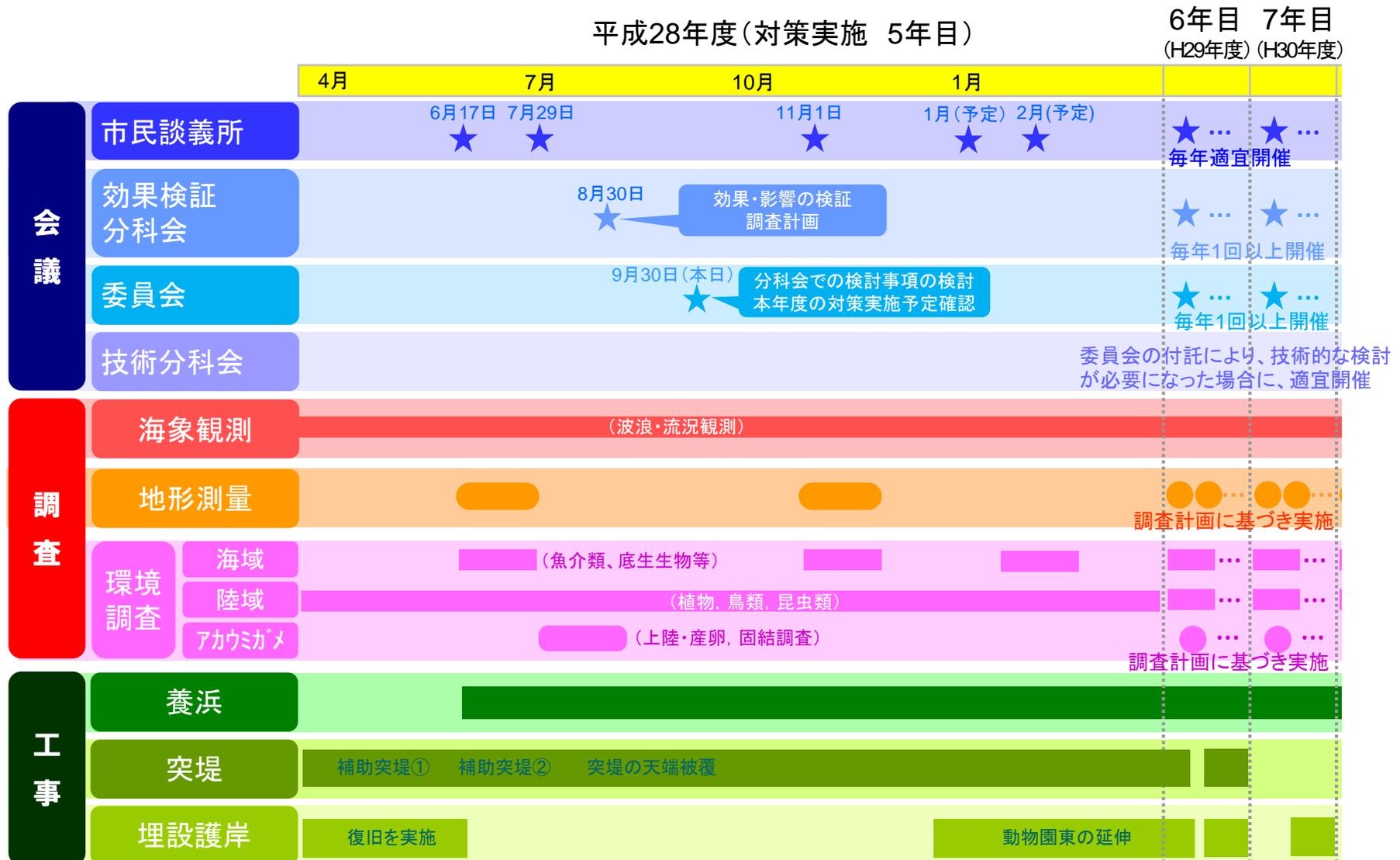
○その他

7. 今後の予定

(1) 平成28年度の全体予定

(2) 平成28年度の市民談義所での談義内容(案)

(1) 平成28年度の全体予定



| 日程 | 内容 |
|-----------------|--------------|
| H28.6.17(金)実施済み | 動物園東の開口部について |
| H28.7.29(金)実施済み | 効果検証に対する談義 |
| H28.11.1(火)本日 | 委員会・分科会結果報告 |
| H29.1頃 | 未定 |
| H29.2頃 | 未定 |

- ※工事に関わる事項については、毎回、その時点の情報・状況・見込みを報告・説明します
- ※談義したいテーマ等がありましたらご提案ください
- ※日程・内容は現時点の予定です
事業の進捗等により変更になる可能性があります
- ※適宜ワークショップやグループワークを実施する予定です

8. その他

